

国際バカロレア地理教科書 Oxford University Press 『Oxford IB Diploma Programme: Geography』における人口単元の内容分析

由井 義通・熊原 康博・阪上 弘彬*・佟 亜斎娜**・横川 知司***・潘 意涵***・
孟 瑜***・陶 子***・岩佐 佳哉****・原田 歩****・劉 暁一****・
沈 彧馨****・鄧 竹珂*****・清水 優生*****・住谷 侑也*****・
近沢 菜々子*****・中村 光希*****・王 莹*****

(2021年12月6日受理)

Content Analysis of Population Unit in the Textbook “Oxford IB Diploma Programme: Geography”

Yoshimichi Yui, Yasuhiro Kumahara, Hiroaki Sakaue, Yaqina Tong, Satoshi Yokogawa, Yihan Pan, Meng Yu, Zi Tao, Yoshiya Iwasa, Ayumu Harada, Xiaoyi Liu, Yuqing Shen, Zhukew Deng, Yuki Shimizu, Yuya Sumitani, Nanako Chikazawa, Mitsuki Nakamura and Ying Wang

Abstract: The International Baccalaureate aims to develop inquiring, knowledgeable and caring young people who help to create a better and more peaceful world through intercultural understanding and respect. This study aims to clarify the contents and learner's activities of geographical textbooks, which mirror the IB philosophy of viewing the curriculum in terms of a whole-course approach. The contents of the textbook use many case studies, but also include explanations of concepts and reading of teaching materials such as graphs and maps. However, it became clear that there were many activities that asked for explanation of knowledge understanding, and relatively few inquiry-based learning activities.

Key words : geographical education, International Baccalaureate, geographical textbooks, activities

1. 国際バカロレアにおける地理の概要

IB (国際バカロレア) は、3～19歳を対象に「多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的」に掲げるものである (IBO, 2017a, p. 1)。そのため4つのプログラムが用意され、初等はPYPは、中等はPYP, DP, CPが設定される。本稿の対象であるDPは16～19歳を対象に、6つの教科(「言語と文学(母国語)」、「言語習得(外国語)」、「個人と社会」、「理科」、「数学」、「芸術」とDPの3つの「コア」(「課題論文」、「知の理論」、「創造性・活動・奉仕」)の必修要件で構成される (IBO, 2017a, p.6)。またDPにおける社会に関する教科は、「個人と社会 (Individuals and societies)」が設定されている。なお日本のIBの社会系教科

に関する研究は、理科と比較して低調だが、近年では日本社会科教育学会でIBに関する研究会が開催され (野口ほか, 2019)、また歴史 (津山, 2013; 堀井, 2016; 次橋, 2017; 浅井, 2018; 梶木, 2018)、地理 (津山, 2015; 中村ほか, 2017; 藤澤, 2019)、哲学 (次橋, 2019) を対象にした研究が蓄積されている。

「地理」は「個人と社会」の中に位置づけられ、『DP「地理」指導の手引き』(以下、『手引き』)によれば、『地理』は空間を扱うという特徴があり、『社会科学』や『ヒューマンサイエンス(人間科学)』と『自然環境』の間に位置づけられるものとされる (IBO, 2017b, p.7)。とくに「地理」は、「自然地理学、環境地理学、人文地理学を統合して、社会経済的な方法論と科学的な方法論の両方を取得するように促し」、「地理」独自の位置づ

* 千葉大学, ** 華南師範大学, *** 広島大学大学院教育学研究科博士課程後期, **** 広島大学大学院人間社会科学研究科博士課程後期, ***** 広島大学大学院人間社会学研究科博士課程前期, ***** 広島大学大学院教育学研究科研究生

けを利用して、関連する概念や考え方を幅広い学問領域から考察」することで、「人生にとって欠かせないスキルを習得し、異なるアプローチや視点、考え方の価値を理解して、それらを尊重すること」学習するとされる (IBO, 2017b, p.7)。

加えて地理の学習者像 (IBO, 2017b, p.21-22 参照) では、地理的技能を使用なしは応用できる姿が想定され、地理的技能が重要視されている。これは、『手引き』によれば、「地理的技能は、『地理』を学習し、この教科特有の方法論とアプローチを反映させるうえで欠くことができません。これらのスキルを指導・学習することで、『地理』に対する生徒の理解が深まり、適切な技法と用語を使用したり応用したりすることができる」ようになるとの理由からである (IBP, 2017b, p.24)。そのために、スキルだけが独立して学習されないように、シラバス全体を通じて学習されるべきとの考え方が示されている (IBP, 2017b, p.24)。

表 1 「地理」のねらい

1	人、場所、空間、環境の間で生じるさまざまなスケールの相互関係についての理解を深める。
2	地理的な問題の結びつきという文脈に照らして、批判的な認識を育み、複雑な思考を考察する。これには以下のことが含まれる。 一地理的な問題、すなわち解決するのが難しい社会的・文化的問題が、人間の性質や物理的な性質に起因する強力なプロセスによってどのように形成されているかについての理解を深める。 一これらの問題をどのようにすれば解決できるかについての見解を形成するため、多様な地理的知識を統合する。
3	さまざまなスケールで資源を管理することにより持続可能な開発を計画する必要があることを理解し評価する。

出典：IBO (2017, p.15) より作成。

『手引き』では、「個人と社会」のねらいとともに、「地理」固有のねらいも示される (表 1)。「地理」のねらいは 3 つからなり、1 は相互のつながりの認識、2 は地理的問題の自然・人文地理的つながりからの分析・認識、それを踏まえた問題解決、3 は持続可能な開発に関する認識・評価に関するものと思われる。これらのねらいでは、地理固有の概念が重視されていることがわかる。

地理の概念に関して『手引き』では、「概念をカリキュラムのトピックの前面に据えて地理学的な探究に重点を置くことで、議論を刺激して思考スキルの応用を促し、透明性の高い評価が行えるようになります」(IBO, 2017b, p.19) と示され、地理学の概念として「スケール」、「場所」、「空間的相互作用」、「プロセス」、「力(権力)」、「可能性」の 6 つが提示される (IBO, 2017b, pp.19-20)。

2. 研究対象と分析手法

(1) 研究対象

本研究の対象は、Oxford University Press 発行の IB の Diploma 対応の地理教科書『Oxford IB diploma Programme: Geography』(2011) および『Oxford IB diploma Programme: Geography 2nd edition』(2017)である。前者は 2011 年に刊行された初版本で、後者は 2017 年に刊行された第 2 版である。Oxford University Press のを研究対象としたのは、旧版と新版の内容を比較することが可能なためである。

新旧の『Oxford IB diploma Programme: Geography』の巻頭には次のような「コースコンパニオン」の定義が記載されている。

「IB ディプロマ・プログラム・コースコンパニオンは、特定の科目の 2 年間のディプロマ・プログラム・コースを通して生徒をサポートするために作られた教材である。この教材は、IB の目的や目標を説明する方法で内容を提示しながら、IB ディプロマ・プログラムの科目の学習に何が求められているかを理解するのに役立つ。国際バカロレアの理念とアプローチを反映し、より広い問題との関連性を持たせ、批判的思考の機会を提供することで、各科目の深い理解を促す。

この本はコース全体のアプローチ、幅広い資料の活用、国際的見識、IB 学習者像と IB ディプロマ・プログラムのコアカリキュラム、知識の理論、課題論文 (the extended essay)、創造性、行動、奉仕 (CAS: Creativity, Activity, Service) に関するカリキュラムをみるような IB の理念を反映している。

各図書は他の教材と併用することができ、実際、IB の生徒は様々な資料から結論を導き出すことが求められ、また奨励されている。それらには、追加資料や追加の読み物の提案がなされ、幅広い研究をする方法についても

提案している。」(p.iii)

続いて、IBの使命が、以下のように書かれている。

国際バカロレアは、異文化の理解と尊重を通じて、より良い平和な世界の実現に貢献する、探究心、知識、思いやりのある若者を育成することを目的とする。

この目的のために、国際バカロレアは、学校、政府、国際機関と協力して、国際教育と厳格な評価のための挑戦的なプログラムを開発している。

これらのプログラムは、世界中の生徒が、違いのある他者も正しいと理解し、積極的で思いやりのある生涯学習者になるように促す。

IB対応の教科書には、このような定義や使命を明記することによって、学習目的を明確化し、国際的な視野を持ち、活躍できる人材の育成に必要な資質能力を提起している。

(2) 分析手法

教科書の内容分析として、最初に2011年版と2017年版の章構成を比較検討する。次に、国際バカロレアの基本理念である10のIB学習者像が学習活動の中でどのように育成しているのかについて検討する。そのための分析指標として表2に示す10の学習者像を用いる。すべてのIBプログラムの目的は、共通の人間性と地球の守護者としての自覚を持ち、より良く、より平和な世界の創造に支援する国際志向の人材を育成することである。IB学習者像は、探究心を持つ人、知識のある人、考える人、など10の学習者像であるが、この学習者像の達成のために、それぞれの学習活動の内容について分析を行う。

3. IB 地理教科書の内容構成

Oxford 大学出版のIB対応の地理教科書について、2011年版と2017年版の内容構成を検討する。2011年版と2017年版はいずれも総ページ数が650ページを超える分量となっており、2年間の学習用で、学習される単元が選択されることになっているとはいえ過剰ともいえる内容量である。2011年版と2017年版の間には、「国連ESDの10年」をスローガンにして世界各国でESDの取り組みが数多くなされた。そのため、2011年版と2017年版の間にはESDの世界的普及の前後でESDへの取り組みに差が出るものと予想される。

表2 国際バカロレアの学習者像

探求心を持つ人 (Inquirers)	学習者は自然な好奇心を育てる。探究心や研究に必要なスキルを身につけ、自主的に学ぶ姿勢を示すことができる。積極的に学ぶことを楽しみ、この学ぶ喜びを生涯にわたって持ち続ける。
知識のある人 (Knowledgeable)	学習者は地域のおよび世界的に重要な概念、アイデア、および問題を探求する。そうすることで、深い知識を習得し、幅広くバランスのとれた範囲の分野にわたる理解を深める。
考える人 (Thinkers)	学習者は複雑な問題を認識し、アプローチするために、思考スキルを批判的かつ創造的に適用して、理性的かつ倫理的な判断をするために率先して行動する。
他人とコミュニケーションがとれる人 (Communicators)	学習者はアイデアや情報を理解し、自信を持って創造的に、複数の言語や様々なコミュニケーション手段で表現する。また、他者との共同作業を効果的かつ積極的に行う。
誠実で正義感のある人 (Principled)	学習者は誠実さと正直さを持って行動し、公正さと正義感を強く持ち、個人、グループ、共同体の尊厳を尊重する。自らの行動とそれに伴う結果に責任を持つ。
オープンマインドな人 (Open-minded)	学習者は自国の文化や歴史を理解し、評価するとともに、他の個人や地域社会の視点や価値観、伝統を受け入れることができる。多様な視点を求め、絶えず評価してその経験から成長することを望む。
他人への思いやりがある人 (Caring)	学習者は他者のニーズや感情に共感し、思いやりを持ち、尊重する。奉仕の精神を持ち、人々の生活や環境に良い変化をもたらすために行動する。
新しいことに挑戦できる人 (Risk-takers)	学習者は慣れない状況や不確実性に対して、勇気と先見性を持って取り組み、新しい役割、アイデア、戦略を探求する自立した精神を持つ。また、自分の信念を守るために勇気を持ち、明確に行動する。
バランスのとれた人 (Balanced)	学習者は自身と他者の幸福のために、知的、身体的、感情的なバランスが重要であることを理解する。
振り返ることができる人 (Reflective)	学習者は自分自身の学習や経験をよく考えて行動する。自分の学習と自己啓発を支援するために、自分の強みと限界を評価し、理解することができる。

『Oxford IB Diploma Programme: Geography 2nd edition Course Companion』(p.iv)を翻訳

(1) 2011年版の内容構成

2011年版のIB地理教科書の内容構成について検討する。

2011年版『Oxford IB diploma Programme: Geography』の内容構成は、第1部はコアテーマの「パターンと変化」、第2部は選択テーマ、第3部は「グローバルな相互作用」、第4部は試験の準備や課題作成の仕方、評価の4部構成である。

コアテーマは、人口の転換、地域格差、環境、資源という地球的課題を大単元として構成されている。選択テーマとなる第2部は水問題や海洋、極地、災害などの自然地理的な内容と観光、食、都市に関する問題から構成され、第3部は経済、社会、文化の交流や環境変化の大単元から構成されている。これらの内容構成は、IB以外のナショナルカリキュラムに対応した地理の教科書と大単元の項目に大きな違いが無いものの、多くのケーススタディーの教材を使いながら、地図や統計、グラフが非常に多く使用されている。

(2) 2017年版の内容構成

次に、2017年版の内容構成について検討する。表3に示すように、2017年版は2011年版と比べて、大単元の配置の順序が大きく変更された。選択の大単元が配置され、2011年版に第2部、第3部にあった淡水と流域、太陽と海岸線、極地の環境、災害、食と健康、都市環境の大単元が最初に移動され、第1部にあったコアテーマは、2017年版では、選択単元の後にユニットとして人口の変化、気候変動、資源消費と保護、国際的なネットワーク、開発と文化、グローバルリスクとレジリエンスからなる6つのユニットが構成されている。コアテーマが選択の後ろに配置された意図についてはわからないが、地球的課題について多くの事例から学習を可能とすることによって、全世界のいずれの地域においても地球的課題に関連した教材があることを学習し、ケーススタディーの学習が他の事例との比較考察が可能となっている。

また、2017年版では個々の大単元で学習するケーススタディーの場所が地図で示されており、全世界において偏りが無いように事例が構成されているが、どのテーマでどのケーススタディーを使って学習するのか、教師の地理的資質が問われる。

4. 人口単元の内容分析

前章でみたように、地理の内容は国際バカロレアのプログラムに対応の有無にかかわらず、地域格差の問題や環境問題など、自然環境と人文社会現象に関わる地球的課題を教材として、多様な思考力や統計分析などのスキルを育成するものとなっている。本論文では、地球的課題のうち、日本の教科書においても共通して扱われている人口の単元を取り上げ、IB対応の単元内容についてどのような資質能力を育成することが図られているかに着目して分析を行う。

表3 Oxford大学出版(2017):『Oxford IB diploma Programme: Geography 2nd edition』の目次

Option (選択)	Unit (単元)
単元題目	単元題目
Option A 淡水と流域	Unit 1 人口の変化
1 淡水域の水文学と地形学	1 人口と経済発展のパターン
2 洪水と洪水被害の軽減	2 人口変化と場所
3 水不足と水の質	3 挑戦と機会
4 水管理の未来	Unit 2 地球の気候: 脆弱性と回復力
Option B 大洋と海岸線	1 地球の気候変動の原因
1 海洋と大気の相互作用	2 地球規模の気候変動の結果
2 海洋と沿岸域との相互作用	3 気候変動への対応
3 海岸線の管理	Unit 3 グローバルな資源消費と保護
4 海洋管理の未来	1 消費の世界的動向
Option C 過酷な環境	2 資源消費の動向変化の影響
1 極限環境の特徴	3 資源管理
2 自然的プロセスと景観	Unit 4 パワー、場所、ネットワーク
3 極限環境の管理	1 国際的な相互作用と大国
4 極限環境の未来	2 国際的ネットワークとフロー
Option D 地球物理学的危機	3 国際的な相互作用における人間と自然の影響
1 地球物理学的システム	Unit 5 人間の発達と多様性
2 地球物理学的危機のリスク	1 開発の機会
3 ハザードリスクと脆弱性	2 アイデンティティと文化の変化
4 将来の回復力と適応力	3 国際的な相互作用に対するローカルな反応
Option E レジャー、観光、スポーツ	Unit 6 グローバルリスクとレジリエンス
1 変化するレジャーパターン	1 地政学的・経済的リスク
2 地域と国レベルでの観光とスポーツ	2 環境リスク
3 国際的な規模での観光とスポーツ	3 ローカルおよびグローバル・レジリエンス
4 将来のための観光とスポーツの管理	索引
Option F 食と健康の地理学	
1 食と健康の測定	
2 フードシステムと病気の広がり	
3 食と健康のステークホルダー	
4 将来の健康と食の安全と持続可能性	
Option G 都市環境	
1 都市環境の多様性	
2 変化する都市システム	
3 都市の環境的・社会的ストレス	
4 未来のための持続可能な都市システムの構築	

Garett Nagle and Briony Cooke (2017):『Oxford IB diploma Programme: Geography 2nd edition』Oxford University Press.より作成

表4 IBにおける学習の方法

スキル	具体的なスキル
思考スキル	批判的思考、創造的思考、倫理的思考など
リサーチスキル	情報の比較、対照、検証、優先順位づけなど
コミュニケーションスキル	口頭および記述によるコミュニケーション、効果的な傾聴、議論を組み立てることなど
社会性スキル	良好な社会的関係を築いて維持する、他者の話を傾聴する、対立関係を解消するなど
自己管理スキル	管理・調整スキル(時間や課題の管理)、情意スキル(感情やモチベーション)の両方

文部科学省HP(<https://ibconsortium.mext.go.jp/about-ib/>)より作成

分析にあたって、IBにおける学習の方法(表4)に示されたスキルがどのように育成されているのかに着目し、また、先述のIBの学習者像(表2)との関連についても考察した。

2011年版の人口単元の内容は紙面の関係で省略し、2017年版は表5に示した。

表5 『Oxford IB diploma Programme: Geography 2nd edition』の人口単元の内容分析

内容	IBの学習者像の分類	学習の方法
<p>1. 人口と経済発展のパターン</p> <p>地球規模での人口分布に影響を与える要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ●概念の理解（重要なテーマ、キーコンテンツ）、人口分布 <p>経済発展の世界的パターンと分類</p> <p>所得による国別分類、事例：経済的分類</p> <p>国家規模での人口分布と経済発展</p> <p>中国の人口分布、国内の人口移動</p> <ul style="list-style-type: none"> ●知の理論 南アフリカの人口分布、南アフリカ国内の人口移動 ●リサーチスキル、理解の確認、文脈中の概念、総合評価 	<p>知識のある人</p> <p>知識のある人</p> <p>探究する人</p> <p>知識のある人</p> <p>コミュニケーションができる人</p>	<p>リサーチスキル</p> <p>リサーチスキル</p> <p>コミュニケーションスキル</p>
<p>2 人口と場所の変化</p> <p>時系列での人口変化と人口転換の推移</p> <ul style="list-style-type: none"> ●概念の理解（重要なテーマ、キーコンテンツ） 自然増加、合計特殊出生率、寿命、人口ピラミッド、高齢化★ メガシティの影響が個人と社会に及ぼす影響 ●知の理論 事例研究：メガシティの成長—ムンバイ <p>強制移住の原因と結果</p> <p>強制移住の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ●知の理論 事例研究：シリア内外への強制移住 事例研究：ナイジェリアの強制移住 ●理解度の確認 ●文脈中における概念 ●総合評価 	<p>探究する人</p> <p>知識のある人</p> <p>コミュニケーションができる人</p> <p>知識のある人</p> <p>コミュニケーションができる人</p> <p>知識のある人</p> <p>コミュニケーションができる人</p> <p>コミュニケーションができる人</p>	<p>リサーチスキル</p> <p>コミュニケーションスキル</p> <p>リサーチスキル</p> <p>コミュニケーションスキル</p> <p>コミュニケーションスキル</p> <p>コミュニケーションスキル</p>
<p>3 挑戦と機会</p> <p>人口の高齢化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●概念の理解（重要なテーマ、キーコンテンツ） 高齢化社会 ●知の理論 ●オンラインケーススタディ 事例研究：日本の高齢化社会★ 出産奨励（ナタリスト）に賛成する政策と反対する政策★ ●知の理論 事例研究：中国の一人っ子政策、2013年改革 事例研究：ロシアの出産奨励政策 事例研究：ケララ州の識字率とジェンダー平等政策 ●リサーチスキル 人身売買防止政策 ●リサーチスキル 人身売買のリスクがある集団、難民と移民 LGBTIの人々と宗教的少数派、障がい者、無国籍者など 事例研究：ナイジェリア人女性のヨーロッパへの人身売買 ●リサーチスキルとコミュニケーションスキル <p>人口ボーナス</p> <p>人口ボーナスのメリット、課題</p> <p>人口ボーナスと家族計画、健康の改善、教育と男女共同参画</p> <p>事例研究：エチオピアと人口ボーナス</p> <p>事例研究：韓国の人口ボーナス、教育方針の転換、経済計画</p> <p>人口ボーナス期のあと</p> <ul style="list-style-type: none"> ●リサーチとコミュニケーションスキル ●理解度の確認 ●文脈中における概念 ●総合評価 	<p>知識のある人</p> <p>コミュニケーションができる人</p> <p>考える人</p> <p>探究する人</p> <p>考える人</p> <p>コミュニケーションができる人</p> <p>探究する人、知識のある人</p> <p>コミュニケーションができる人</p> <p>探究する人</p> <p>知識のある人</p> <p>信念を持つ人、挑戦する人</p> <p>探究する人</p> <p>挑戦する人</p>	<p>思考スキル</p> <p>コミュニケーションスキル</p> <p>思考スキル</p> <p>リサーチスキル</p> <p>コミュニケーションスキル</p> <p>リサーチスキル</p> <p>コミュニケーションスキル</p> <p>思考スキル</p> <p>リサーチスキル</p> <p>思考スキル</p> <p>コミュニケーションスキル</p>
試験対策(章末問題)	探究する人 挑戦する人	思考スキル コミュニケーションスキル

Garett Nagle and Briony Cooke (2017) 『Oxford IB diploma Programme: Geography 2nd edition』 Oxford University Pressより作成

★2011年版と同じ内容

●Activity以外の学習活動

表6 IB地理テキスト『Oxford IB diploma Programme: Geography』の人口単元におけるアクティビティ (To do)

ページ	アクティビティ
2	世界各地の出生率と死亡率の変化を示した図1.2を学習しよう。 a 1950年と2005年間のアフリカの人口の変化を記述しなさい。 b 粗死亡率の変化がある地域の人口増加の傾向にどのように影響しているのか説明しなさい。
6	図1.6について学習しよう。 a 2050年までに最も人口が減少すると予想される国はどこか。 b 人口が増加すると予想される国はどこか。 c バルカン諸国の人口が減少すると予想される理由を述べよ。
7	図1.7に示された世界の死亡率のパターンを説明しなさい。
8	図1.8について学習しよう。 a 男性の死亡率が女性の死亡率よりも高い国を、世界の異なる地域から二つ見つけなさい。 b 男性の死亡率が女性の死亡率と同じ国を、異なる大陸から二つ見つけなさい。
9	a 1970年から2005年間に、平均寿命の減少が最大の国と増加が最大の国はどこか。 b ベトナムと南アフリカ共和国の平均寿命の変化を比較しなさい。 c 多くのアフリカ諸国で平均寿命が短くなっているのに対して、中東諸国では伸びている理由を示しなさい。
10	a 2010年と2025年の中国とイタリアの人口ピラミッドの説明をしなさい。 b 中国の人口は時系列でどのように変化しているか。 c 次の用語の定義と説明をしなさい。 人口モメンタム (人口増加潜在力)、倍加時間、平均寿命
11	図1.12から中国、アメリカ、世界の人口構成を理解しよう。 図1.12をコピーして、エチオピア、ベトナム、ジンバブエの年齢別人口表1.3(または自分が選択した国)の2つ以上の国を使用して、各国の主な人口統計学的特性を説明せよ。
14	a 図1.14からODRの世界的なパターンを記述せよ。 b 図1.14から1990年~2040年のODRの変化について意見を述べよ。 c 老年人口が多いことのメリットを説明せよ。 d 図1.16から日本の人口ピラミッドでの変化を記述せよ。 e 老年人口が多いことのデメリットを簡単に説明せよ。
15	異なる出生率のレベル別にみた中国における人口予測を示す図1.17について学習しよう。 1. 一人っ子政策の代わりに二人っ子政策を実行すると、中国の2080年の人口はどのように増加するか。 2. 一人っ子政策の主なメリットを概説せよ。 3. 一人っ子政策の主なデメリットは何か。 4. 一人っ子政策についてあなたの意見は？あなたの答えの根拠を説明しなさい。
16	1995年と2003年における安全な妊娠中絶と危険な妊娠中絶をした15~44歳の女性の1000人当たりの比率を示した図1.18を学習しよう。 a 安全な妊娠中絶と危険な妊娠中絶の用語の定義を説明しなさい。 b 危険な妊娠中絶が最も多い地域はどこか。 c 安全な妊娠中絶が最も多いのはどこか。 d アジアにおける妊娠中絶の多様なパターンの理由を説明せよ。 e 1995年と2003年の安全な妊娠中絶と危険な妊娠中絶の変化について説明せよ。 f 「女性の墮胎は社会的に必要」について議論しよう。
18	世界の主要な移民のルートを示した図1.21を学習しよう。必要なら、地図を使って以下のことを確認しよう。 i 南アフリカへ移民を送り出している国はどこか。 ii 中国からの移民の目的地はどの大陸か。 iii ロシアへの移民を送り出しているのはどこか。 iv 中東への移民を送り出しているのはどこか。
25	シャリア法とはどの国で適用されているか。 シャリア法が女性の権利に与える影響を明らかにしなさい。

Garett Nagle and Briony Cooke (2011): 『Oxford IB diploma Programme: Geography』 Oxford University Press.より作成

表7 IB地理テキスト『Oxford IB diploma Programme: Geography 2nd edition』の人口単元におけるアクティビティ

ページ	アクティビティ
392	1. 図1.5に示すように、2000年の中国における人口密度の変化を説明せよ。 2. 2000年と比較した2020年までの人口密度の主な変化の予測を概説せよ。 3. 中国における国内移動の傾向を、1990年と1995年の間と、2000年から2005年の間で比較しなさい。 4. 表1.1の人口密度が図1.5の人口密度よりも低い理由を説明せよ。
395	1. 図1.8に示した南アフリカの人口分布を説明せよ。 2. 中国(図1.7)とアパルトヘイト時代の南アフリカ(図1.8)の主な移民の種類を比較しなさい。 3. 図1.8を見て南アフリカの主要な中核地域と主要な周辺地域を特定しなさい。南アフリカの中核地域と周縁地域の要因を2つ以上提案しなさい。
398	1. 一般的な人口転換モデルの特徴を記述せよ。 2. なぜアイルランドの人口転換モデルは日本のそれと異なるのか端的に説明せよ。
399	例を用いて、なぜある国が他の国より高い出生率を誇るのか説明せよ。
402	図1.17をコピーして、人口ピラミッドに注釈をつけ、時系列での人口構造の主な変化を示しなさい。
402	図1.18から中国、アメリカ、世界の人口構成を理解しよう。 図1.18のコピーにこの表の情報を使って、エチオピア、ベトナム、表1.3(または自分が選択した国)の2つ以上の国を使用して、各国の主な人口統計学的特性を説明せよ。
404	
406	1. ムンバイがメガシティとして成長した理由を簡単に説明せよ。 2. ムンバイに億万長者と数百万人の貧しい人々が混在している理由を説明せよ。
412	1. 図1.23から、ODRの世界的なパターンを記述せよ。 2. 図1.23から、1990年~2040年のODRの変化についてコメントせよ。 3. 老年人口が多いことのメリットを説明せよ。 4. 図1.24から日本の人口ピラミッドでの変化を記述せよ。 5. 老年人口が多いことのデメリットを簡単に説明せよ。
413	図1.25から、中国のいろいろなレベルの出産の異なる人口シナリオを示すのはどちらか。 1. 一人っ子政策の代わりに二人っ子政策を実行すると、中国の2080年の人口はどれくらい増加するか。 2. 一人っ子政策の主なメリットを概説せよ。 3. 一人っ子政策の主なデメリットは何か。 4. 一人っ子政策についてあなたの意見は？あなたの答えの根拠を示しなさい。
418	1. 人身取引の防止、支援、処罰に関する国連議定書に署名していない国を空白の世界地図に描きなさい。 2. 描き示した国の分布についてコメントしなさい。

Garett Nagle and Briony Cooke (2017): 『Oxford IB diploma Programme: Geography 2nd edition』 Oxford University Press.より作成

(1) 2011年版

2011年版の人口の単元構成は、世界の人口推移、出生率、死亡率、平均寿命、人口ピラミッド、多子化・少子化への対応と人口政策、老年人口、移民、難民、ジェンダーの小単元から構成される(表6)。そのなかで、「TOK Link (Theory of knowledge: 知の理論)」、「Be a critical thinker」、「To research」が設定されている。2011年版におけるアクティビティは「To do」として設定されている。他にも「To Research」という学習活動が設定されているが、発展学習的な内容が多いため、本稿では「To do」の学習活動について検討する。

表8に示すように、アクティビティにあたる「To do」はグラフや地図の読み取りや説明あるいは記述させる学習活動が中心となっており、思考力や判断力を育成するような学習活動は少ない。また、資料を比較考察するような発問もなく、知識理解を問うものもある。単元全体を通して様々な学習者像の育成が目指されていることが読み取れるものの、特に多いのは、「探究する人」、「知識のある人」、「考える人」であり、すべての節で「知識のある人」に関連したアクティビティが設定されていた。

学習の方法についてみると、5つの学習の方法のうち、思考スキルが最も多く、次にリサーチスキル、コミュニケーションスキルが続いた。これらのスキルは学習の内容によって分類することが出来ると考える。概念の理解や図表の読み取りでは思考スキルを活用することが多い。また、リサーチスキルは図表の読み取りや探究しようという項目において活用されている。コミュニケーションスキルはやってみようという項目の中で説明したり理由を述べたり、表現する場面で活用される。社会性スキルは議論する活動の中で用いられている。

このように、学習者像、教科書における学習の方法、指導書における指導の方法の3つの分類を行ったが、それぞれ偏りが大きいということが明らかになった。

(2) 2017年版

2017年版の人口の大単元は、人口と経済発展のパターン、人口の変化、合計特殊出生率、人口政策、メガシティの成長、強制移住、難民、高齢化、人口ボーナスの小単元から構成され、2011年と比較して個々のケーススタディーの内容が充実して具体的な事例を通して学習することが容易になって

いる(表7)。

IBの学習者像の分類からみると、特に多いのは「探究する人」「知識のある人」「コミュニケーションができる人」の3つの学習者像である。これらから、豊富な知識の習得やそれらの知識と資料を活用しながら主体的に探究活動に取り組み、学んだことや資料から読み取ったことについて生徒間での対話を活発に行わせるような構成のつくりが掴めてくる。反対に、本単元では10の人物像のうち全く当てはまらなかった項目もあり、「考える人」「信念を持つ人」「挑戦する人」に当てはまる内容が少なかった

設定された学習活動についてみれば、2017年版は2011年版と同じアクティビティも内容に含まれているが、2011年版に比べて具体的な事例地域を使ったアクティビティが増えて設定されている(表9)。しかしながら、大部分は説明を求めるものであり、IB学習者像に示される「知識のある人」に関連したアクティビティが中心となっている。また、スキルについても、思考スキルが少なく、調べたことを発表するコミュニケーションスキルもわずかしが設定されていない。

以上のことから、IB地理テキストにおいて育成される資質能力は、知識理解的な内容とアクティビティが多く、探究に関する学習課題は少ない。地球的課題である人口に関する教材化は、イギリスにおけるナショナルカリキュラムに対応した地理教科書や日本の地理教科書においても数多くなされているが、それらではグラフや地図を読む力と作成する力を育成するとともに、人口問題に対する多面的な見方の育成が図られることが多い。本書においても、地図やグラフを読む学習活動が多いものの、アクティビティとしては説明が中心となっている。

5. 考察

本研究は、国際的な視野をもつ人間の育成を目指したIBプログラムに対応したイギリスのOxford 大学出版発行の地理教科書『Oxford IB Diploma Programme: Geography Course Companion』(2011年発行)『Oxford IB Diploma Programme: Geography 2nd edition Course Companion』(2011年発行)について、内容構成とアクティビティについて分析を行なった。

内容構成については、IB対応ではない地理の教科書は教材資料と対応させたアクティビティが充実しており、アクティビティは教科書の内容を熟

読すれば回答可能な確認的なものの他に、地理的思考力やスキルを利用しないと解答が難しいものなど、多様な学習活動が仕組まれていた。本書に記載されたアクティビティは、IB 対応ではない中等教育課程の地理教科書に比べて著しく少ない。これは Oxford 大学出版の IB 地理テキストの特徴として、豊富な教材資料を提示していることに特徴を持たせていることであると思われる。しかしながら、研究対象の教科書は、すべての事例を網羅的に学習することを前提としないで、教師が教材を選択するように作成されたと思われ、教科書と副教材が一体化したような分量となっている。そのため教材単元の選択が教師による裁量となり、体系的な地理関連の資質能力の育成やスキルの習得に向けた学習にすることが容易ではないと思われる。

次に、アクティビティについては、IB 対応以外の中等地理教科書と比較して、教材として提示された内容は多いものの、記載内容には説明が過多となる一方で IB 地理教科書の方がアクティビティが少ない。また、アクティビティにより習得される資質能力についてみると、国際的な視野を持つ人間の育成を目指した IB プログラムではあるが、アクティビティの内容の大部分が IB 以外の地理教科書におけるアクティビティと比較して、「説明しなさい」、「記述してください」「概説してください」のように、知識理解と表現力に関連して、思考力の育成などに関連した「問い」が少ない。むしろ IB プログラムに対応していない地理教科書の方が、思考力を育成するアクティビティのほか、探究学習などの多様な学習方法を組み込んだアクティビティが設定されている。しかし、IB プログラムでは 10 の学習者像に示されるような学習目標が明確に提示されている点が特徴であり、学習者がそれぞれの授業において目的意識をもって学習し、グローバル化対応のスキルの習得に重点が置かれている。地理教育は地域や世界で生じる地理的事象を取り上げ、課題解決に取り組んでよりよい社会の実現に向けて学習が展開する点において、地理の学習は IB プログラムとの連携が容易と思われる。

引用文献

IBO(=International Baccalaureate

Organization) (2017a) : 国際バカロレア (IB) の教育とは？

<https://www.ibo.org/globalassets/digital-toolkit/brochures/what-is-an-ib-education-2017-jp.pdf>

IBO (2017b) : ディプロマプログラム (DP) 「地理」指導の手引き。

<https://www.ibo.org/globalassets/publications/geography-guide-2018-jp.pdf>

浅井信雄 (2018) : IB (国際バカロレア) DP (ディプロマプログラム) の教育手法を援用した『日本史』授業の一試案. 教職教育研究, (23), 79-89.

梶木尚美 (2018) : 連盟・同盟・戦争の交錯する 1930 年代の世界 : 国際バカロレア「歴史」の理念をいかした深い学び. 世界史教育研究, (5), 73-78.

次橋秀樹 (2017) : 国際バカロレアの歴史教育に関する一考察—DP 科目「歴史」と TOK 領域「歴史」に注目して—. 教育方法の探究, (20), 45-52.

次橋秀樹 (2019) : 国際バカロレアの DP 科目「哲学」に関する一考察—TOK との相違に着目して—. 教育方法の探究, (22), 45-52.

津山直樹 (2013) : 国際バカロレアと学習指導要領のインターフェイスの可能性—「逆向き設計」論による「日本史 B」の実践を事例に一. 国際中等教育研究 : 東京学芸大学附属国際中等教育学校研究紀要, (6), 235-250.

津山直樹 (2015) : グローバル教育におけるパフォーマンス評価の意義—国際バカロレアに基づいた中学校社会科地理的分野を事例にして—. グローバル教育, 17, 33-49.

中村文宣・椿真智子・荒井正剛・来栖真梨枝・藤澤誉文・関 寿子 (2017) : 国際バカロレアにおけるフィールドワークを軸とした地理教育の在り方 (プロジェクト研究). 東京学芸大学附属学校研究紀要, (44), 97-102.

野口剛・志村喬・田中暁龍 (2019) : 「国際バカロレア (IB) を視野に入れた社会科の実践と評価」について—平成 30 年度春季研究会の報告—. 社会科教育研究, 138, 51-53.

藤澤誉文 (2019) : 国際バカロレアでシステム思考力を育成する—地理教育の実践に向けて—. 地理科学, 74(3), 138-147.

堀井健一 (2016) : 国際バカロレア・ディプロマプログラムの歴史のテキストブックの叙述の特徴からこれからの歴史教育を考える. 教育実践総合センター紀要, (15), 105-119.